

クリンクルの@がSUN SUN
 川崎美紀の
 SMILE通信
 きょうも
おもてなし
日和



エ ッセイを書く機会を得てから3度目の年末を迎えます。年々、月日が経つのが早く感じられるようになりました。

今年は年号が変わり、消費税が上がり、変化を実感する出来事があった年でした。

台風19号の到来がもたらした大きな被害と混乱

つい先日、台風19号の猛威を経験したばかりです。東日本の各地にいままでにないほどの大きな被害をもたらしました。

自宅からワンブロック先には隅田川があります。窓越しに見ると水面

が盛り上がり、水は濁っていて、流れの速さもいつもの数倍と、異様でした。

両岸はすでにスーパー堤防が整備されていますので氾濫の懸念は少ないようですが、豹変(ひょうへん)した川の様子は恐ろしい。大きな謎のいきものが動いているような、勢いと不気味さを感じました。

東京湾から2キロ上流ですので、高潮の危険のほうが高い地域であることは自覚があります。街中を流れる支流の川が隅田川に合流する地点には防潮扉があることも、日常生活のなかで目にしている光景です。

今回は直接的に被災したわけでは

く使いたいと思っています。

ものの多い少ないに関わらず、身近なもの、お気に入りのものを瞬時に失うことは辛いだろうと思います。だから、災害廃棄物と言われるものは、映像で見るだけでも心が震えます。

もともとは誰かの大切なものだったものが、無念のうちに捨てられることになって集められている。もともとは誰かの生命や生活を支えていたものだったものが、役割を奪われ、行き場を失ってしまった――。

一般的なごみにはない、生命力への執着のようなものが漂っているように見えるので、災害廃棄物にはどうしようもない喪失感を感じます。



イラスト★ささきさとみ (http://blog.goo.ne.jp/satomi343)

Vol.30 **防災も、新たな時代へ**

ありませんが、自宅マンションの玄関先や駐車場、裏の入り口などに念のための土嚢(どのお)が準備されていました。

また、コンビニやスーパーでは品薄状態でした。接近前には多くの方が備えとして買い込み、通過後は物流が混乱してしまい、供給が追いつかなかったようです。

災害に遭うことは、多くの人やものを失うこと

「天災は忘れたころにやってくる」という戒(いまし)めは、もう過去のもので。天災は次から次へと間髪入れずにやってくる、恐ろしい時代がやってきています。

いままでの経験だけでは対処できない、防災新時代に備える必要があ

り、「ニューノーマル(新形態)」の認識が求められると思います。

その大前提として、災害に遭うということは、多くの人やものを失うことであるということを改めて認識しました。

台風19号の破壊的なパワーをテレビなどの映像を通じて目の当たりにすると、言葉を失います。実際にその場にいる人は、匂いや音や量や湿度など、画面からでは伝わりきらないさまざまな状況や状態に直面している、さらに辛く厳しい思いをしているのだろうと想像します。

それが自分の家だったら、自分の家族だったら、耐えられるでしょうか。まったく自信はありません。軽々しく被災した方へのお見舞いの言葉を言えないほど、衝撃は大きい

です。そういう堪え難いことをもたらすということを、強く認識しなければなりません。

災害は、誰も幸せにしないのです。だから「備えて、早めに行動して、判断して、周りの人たちと協力して……」と挙げ列ねても、実際の行動に結びつかなければ、絵に描いた餅です。現実的に行動可能なものでないと、招く結果は悲惨なものになります。

映像を見るだけでも心が震える災害廃棄物

私個人としては、ものへの執着はそれほど強いとは思いません。ものはなるべく持たないように、増やさないように努めています。だからこそ、気に入ったものを大切に永

一筋縄ではいかない汚泥の除去作業

また、復旧を妨げている泥。通常のビル清掃においても、カーペットのダストコントロールは簡単そうに見えて難しいものです。繊維の奥に潜む泥を含むダストは、時間とともに表面にせり上がってくると知り、取り除ききることの難しさを感じます。

その泥のしつこい性質は、子どものころ、近所の田んぼでの経験があります。

子どものころに住んでいたところは自然が豊かでした。農閑期に植えてあったシロツメクサの花を摘もうと思ってあぜ道から田んぼに降りていくと、一歩二歩三歩は歩けますが、その次あたりから泥に足を取ら

れて、履いていた長靴が脱げてぬかるんだ泥の中に置き去りになって、ソックスを泥だらけに汚してしまった思い出があります。

泥は乾いているとさらさらしていますが、水分を含むと重くなっていきます。

災害とマラソンでは比べようありませんが、数年前、荒川の河川敷で行われたマラソン大会でのことです。マラソン大会当日は晴れたのですが、前日までかなり雨が降っていました。多くの参加者が行き来するスタート地点の広場は、田んぼのようなぬかるみ状態でした。

ハーフを走り切ったシューズとソックスには泥がこびりついていて、洗ってみましたが繊維の奥深くまで入り込んでしまっていて、きれ

いにはなりませんでした。

泥は粒子が細かいのですね。粘度が高いともいえます。洗い流すことはかなり労力のいる作業です。

自然災害は、誰の身にも起こります。気候が、大きく、そしてスピードを増して変化しはじめています。明らかに、いままでの経験値だけでは測れない状況が多発しています。

「備えあれば憂いなし」ですが、備えるだけではダメ、それらの有効的な活用を自分のこととしてとらえていく準備と訓練が見直されるべきときです。

* * *

本年も大変お世話になりました。来たる新しい年は、明るく、希望に満ちた年になることを、心から祈ります。



川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>
 国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアディベロップメントアドバイザー(CDA)の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当。